

道徳科  
四年  
地域教材

三次市立神杉小学校

## 『弁当の日』で伸びる神杉っ子

里美さんが通う神杉小学校には、一年に四回『弁当の日』があります。一・二年生は「ありがとう弁当」。おうちの人に作ってもらったお弁当を食べたあとにお礼の手紙を書いて持って帰ります。三・四年生は「お手伝い弁当」。何かひとつでいいので弁当作りのお手伝いをします。そして、五・六年生は「自立弁当」。自分でこんだてを考えて、調理から片付けまで全部自分でやります。里美さんには、健太さんという六年生になるお兄さんがいます。六年生なので『弁当の日』には、前の夜から台所に立ってあれこれおかずの下ごしらえをしています。時間はかかりますがとても楽しそうです。時々、お母さんが様子を見に来て、

「ちょっと手伝ってあげようか。流しにたまったなべやフライパンぐらい洗ってあげるよ。」と、声をかけますが、健太さんは、

「いいよ、いいよ。片付けまで自分でやらんと自立とは言えんのじゃけん。」

と、断ります。そんな健太さんを見て里美さんは、わたしも早くお兄ちゃんのようになりたいと思います。今夜も健太さんは、明日の『弁当の日』のために、卵焼きを作り、『野菜市』で買った野菜をゆでたりいた



たりしています。

『野菜市』はJA三次女性部神杉支部の皆さんの協力により、年に一回『弁当の日』の前日に開かれます。「神杉の子供たちに地元産の野菜のおいしさを伝えたい。」と、地域にお住いの川上さんが中心となり、保護者の方も手伝ってくださいます。事前に女性部のメンバーに協力を呼びかけてくださるので、『野菜市』当日の午前中には地元の新鮮な野菜がたくさん集まります。それを五・六年生の児童が500円の予算内で買っています。『野菜市』が開かれる家庭科室には、毎回20種類以上の野菜がならびます。全ての野菜ができるだけ五・六年生全員に行き渡るように、かぼちゃや白菜などの大きな野菜は小さく切り分けてあります。いろいろな種類の野菜を食べしてほしいので、「玉ねぎ一個30円」「キャベツ半分40円」など、買いやすい金額です。おまけに、野菜を使った試食品も用意していただくっていて、レシピもついていきます。健太さんは今日の『野菜市』でもドッサリ野菜を買ってきました。

「白菜とベーコンをいたためてポン酢で味付けするんよ。あっさりしておいしいよ。」

「なつまいもはスティックにして油であげるだけ。なつまいもが甘いけん、そのままで



家庭科室にならべられた、たくさんの野菜



野菜を運んでくださる女性部の方

いいんよ。」

「アスパラはくるくる豚肉をまいて焼こう。」

と、川上さんたちに教わったレシピにチャレンジしています。里美さんも味見をさせてもらいましたが、どれもとてもおいしくできています。健太さんは、

「上手にできてるじゃうっ？明日、里美の弁当にも入れてやるよ。」  
と、得意そうです。

もうすぐ五年生になる里美さんは、学校で川上さんのお話を聞きました。まず最初に

川上さんは、

「神杉小学校では五年生になると一人で弁当を作るんだけど、皆さん、楽しみにしていますか？」  
と質問されました。里美さんは張り切って、

「はい！楽しみです。」

と答えました。でも、中には不安そうな顔の人もいます。すると川上さんは、次のような話をされました。

「何でもそうですが『やりたい』と思う時が一番成長する時です。うちの三人の子供たちもそうでした。はじめはうまくいかないのが当たり前。たとえ失敗しても、全部自分でできたらうれしい、おいしいと感



野菜市の手伝いに来てくださった保護者の皆さん

じるものなのです。食べることは命をつなぐための大切なことです。『食』という字は『人』を『良』くすると書くのでしょう。ただお腹がいっぱいになればいいというものではないのですよね。弁当づくりに取り組むことで、栄養のバランスを考えたり、味付けを工夫したり、色どりを良くもりつけたりと、いろいろなことを工夫するようになります。そのがんばりを友だちと共有できたら、ますます弁当づくりは楽しくなります。そして食材を大切に使用したり、残さず食べたりするようにもなります。『おいしく』と言って食べたい人がある人と、もっとがんばろうと思うようになります。自信もついてきます。神杉小学校の子供たちは『食』を通していろんな力を身に付け、心が育っていると思います。」

里美さんは、『食』は『人』を『良』くする」という言葉が強く心に残りました。そこで家に帰って健太さんに聞いてみました。

「ねえ、お兄ちゃん。お兄ちゃんは自分で弁当を作るようになって良くなったなと思うことがあるっすよ。健太さんは、」

「そうだね、家庭科で習ったことを生かしてみたり、友達から教えてもらったことをやってみたり、これはチャレンジするようになったということかな。失敗しても最後まで自分でやるようにもなったよ。何ゆえ、」



野菜市で、野菜のおいしい食べ方を教えてもらう5・6年生

料理が好きになった！それから、いつもおいしいご飯を作ってくねるお母さんに感謝しなぐちゃと思っ  
うにもなったよ。」

と、自信を持って答えました。

（川上さんが言われた通りだな、お兄ちゃん、すごいな）と思いつながら里美さんは、ますます五年生にな  
って弁当を作るのが楽しみになりました。



\*教材文に出てくる登場人物は仮名としてあります。

【取材に協力してくださった人】江田川之内町 在住 山下 千帆 様

【文責】深田 真規子